

平成24年度 同好会事業報告

俳文学 同好会 世話係名 藤牧 博和 会長名 金井 聡

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参加人員
7 月 7 日	小布施町ハイウェイオアシスにて吟行・句会	4 名
8 月 3 日	須坂市動物園にて吟行・句会	4 名
1 1 月 4 日	北斎館にて、吟行・句会	3 名

俳文学同好会では、今年度七月と八月そして十一月の三回、吟行と句会を実施しました。

一回目は七月に小布施町のハイウェイオアシスへ。初めは生憎、小雨に見舞われ、やや肌寒い中での吟行でした。しかし、それも俳句作りには決してマイナスにはなりませんでした。池の中で嬉しそうに動き回るアメンボたち。池で大声でなくウシガエルに出会えたのも雨のおかげかもしれません。周りに目をやると、白い美しいナツツバキの花弁が目に飛び込んできました。その清楚な花弁は目を奪われるほどでした。また凜として咲くガクアジサイの美しいこと。豊かな自然の美しさに魅了された一時。句会では田中先生から、人には先入観があり、そういう目で見るのは危険であること、現実をしっかりと見ると見過ごしている点を見つけられることを教えられました。

八月は須坂市動物園へ行きました。普段は何気なく眺めていた動物たちもいざ俳句の素材になると見る目も変わります。動物の仕草の特徴に注意をはらうようになります。一同一番驚いたのは七面鳥の威嚇する際の羽音のけたたましさでした。普段と趣向が異なる俳句が生まれました。

十一月には、小布施町の北斎館に集合。田中先生の知人が当館の学芸員だったため、館内の展示品について懇切丁寧な説明を頂きました。幸い当日、北斎漫画展が開催されていて、興味深い展示品に感心することしきり。ここで一句をひねり出す同人も。自然ではなく、屋内の素材から俳句を作

ることができなくて、皆苦戦。屋内での吟行の難しさを痛感しました。田中先生からは記念館内の展示品と館外のものを結びつけて句を作ることの妙について指導して頂きました。

その後、沿道で売られていた焼き栗のほのかに香る通りを後に句会へ足を進めました。

（会長 金井 聡）